

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500825		
法人名	有限会社 グループホームあゆ		
事業所名	グループホーム あゆ		
所在地	高知県高岡郡四万十町大正258番地2		
自己評価作成日	平成30年 9 月15日	評価結果 市町村受理日	平成31年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿って、利用者が安心できる環境づくりを目指し、職員全員がケアの向上に取り組んでいます。

近隣住民とは、日ごろから野菜や果物、お菓子などのおすそ分けをしてくれる付き合いがあり、事業所行事では、沢山の住民がボランティアで参加して助けてくれています。幼稚園、小、中学校の運動会では、利用者の参観場所の提供や、競技への参加に気配りをしてもらい、楽しく参加させてもらっています。高校生も授業で作った野菜や花などを持って来てくれていて、沢山の人の援助で利用者の日々の暮らしが充実していることを、本当にうれしく思っています。

毎年元旦には、初詣で寺や神社に行き、一年の祈願をしています。四万十マラソン大会では、天気が良ければ沿道で応援をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detai_2018_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=3972500825-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大正地区の中心地で自然に恵まれた地域にあり、近くにはJR大正駅や小、中、高等学校、公共施設、商店街などがあって、利便性も高い。

利用者は、地域で行われる学校の運動会や神祭などの様々な行事に毎年参加する一方、事業所主催の運動会や忘年会などには多くの地域住民や関係団体が参加し、地域との深い交流が続いている。近隣住民からの野菜の差し入れが日常的にあり、読み聞かせボランティア、高校生が体験学習で定期的に来訪するなど、地域に根付いた事業所となっている。

管理者は、職員の資質の向上のため、月2回の職員会を開催し、外部研修に積極的に参加させたり、所内研修にも力を入れている。理念である「住み慣れた地域で安心して暮らせる家」になることを目指して、利用者一人ひとりがその人らしく役割を持って暮らし続けられるよう、利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者は、アットホームな雰囲気の中で、職員のケアに支えられながら、落ち着いた明るい表情で過ごしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、共同スペースに掲示している。月2回の職員会では、理念に基づく利用者の支援に努め、どのように取り組めたかを話し合っている。	月2回の職員会で、事業所理念が支援に反映されているか話し合い、確認している。特に、事業所を大きな我が家として捉え、その中で、利用者がその人らしく、役割を持って生活を送れることを重点に、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にできる限り参加し、事業所の運動会や忘年会には、地域住民や地元団体の参加を得て、良好な交流ができています。近隣住民からは、果物や野菜、お菓子など色々な物の差し入れが日常的にあり、読み聞かせ等のボランティアにも来てもらっている。	利用者は地域行事に参加し、事業所主催の運動会などには地域の参加を得て、楽しく交流を深めている。地域住民からの差し入れや、定期的なボランティア来訪がある。職員は地区会や地域防災訓練に参加するなど、地域の一員としての役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトであり、生活支援サポーターとして、認知症高齢者の介護をしている近隣家族を対象に個別に相談を受け、ストレスの軽減に努めている。学生の体験学習の受け入れも積極的に行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、町担当者、区長や近隣住民、家族の参加を得て、事業所行事や運営状況報告、情報交換などを行い、サービスに活かしている。	地域代表2名、利用者、家族代表、町職員が参加し、利用者の状況、事業所運営状況について活発な意見交換が行われ、会議を通じて地域の理解と協力促進につながっている。議事録は議題毎に詳細に記載され、家族来訪時に閲覧できるようにしている。	家族の事業所運営への理解を図るためにも、家族への議事の録送付により運営推進会議協議結果の周知を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への行政担当者の参加のほか、町のグループホーム連絡会や勉強会などにも参加している。	町職員が運営推進会議に参加し、事業所職員は、町主催のグループホーム連絡会や研修会に参加している。事業所行事には、町から支援を受けている。日ごろから対応困難事例の相談や情報交換を行い、良好な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月2回の職員会で研修に参加した職員からの報告を受け、その都度勉強会を行い、職員全員が身体拘束をしないケアの理解を深めている。日常の言葉遣いにおいても、職員同士で注意し合っている。	職員を研修会に参加させ、職員会で伝達することで全員が理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。気になる言葉遣いは、職員同士で注意し合っている。日中は玄関の施錠はしておらず、利用者個々に夜間転倒防止の対応をする際には、家族の同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に順次職員を参加させている。事業所内においても、伝達講習や勉強会を開くことで知識を共有し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者又は管理者が研修に赴き、その後の職員会で報告と話し合いを行って、全員が思いを共有し、制度活用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時又は改定時には、利用者、家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営推進会議には利用者、家族代表の参加を得て、意見、要望を把握している。	運営推進会議のほか、家族の来訪時や電話で個別に意見や要望を聞いている。年3～4回、事業所行事の際に家族だけで集まってもらい、出された意見は代表者から聞き取って、個別ケアの改善などに活かしている。話し合いの内容は、未参加家族には周知されていない。	事業所行事の際に行われる家族同士の話し合いを家族会の記録として残し、不参加家族に事業所便りや運営推進会議の記録などとともに送付して、より多くの感想や率直な意見を出してもらえる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や申し送り等を通じて、職員の意見や要望が代表者、管理者に話せる体制が整っている。職員の中にリーダーを置き、職員から出た意見や要望を集約して、報告を受けるようしている。	管理者は、職員会や日々の申し送りなどを通して職員が意見や要望を気軽に出せるよう、信頼関係づくりに努めている。ケアの内容や行事の企画、利用者の受け入れなどに対する意見を活発に出してもらい、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の勤務状態を把握しており、それに見合う処遇をしている。職員の希望に沿った勤務割や、スキルアップにつながる研修参加の働きかけなども行っている。また、子育て支援として家庭や子育てへの負担にならない労働時間体制を設け、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に職員が積極的に参加できる機会を設けている。会社負担で講習を受けられるようにしており、その後の職員会で伝達講習を行い、全職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる町内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や事例検討会などを行って、事業者同士の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実地調査でアセスメントを行い、本人の困っていること、要望に対して、本人、家族と一緒にどのようなサービスを提供していくかを考え、安心して入所していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族との面談を行い、困っていることや要望に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。また、入所後面会時に要望を聞いたり、日頃の様子を伝えたり、介護記録に目を通してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が必要としていることを話し合い等から把握し、事業所に対応できるかの判断をきちんと伝えて、対応できないものに関しては社外のサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々の利用者に合った役割を見つけ、掃除や料理の手伝い、レクリエーションを一緒に行うよう心がけている。また、家族の一員として生活を共にしていけるような配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に利用者の様子を伝えるようにし、家族と共に利用者の介護を行うという体制を作り、その都度、職員との話し合いを行って、関係構築を心がけている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの店を利用するなど、これまでの関係が途切れないように支援している。家族や友人の訪問時には、居室又はホールで思い出話し等を交わし、快適に過ごしていただけるよう努めている。</p>	<p>入所時に家族や関係者から馴染みの関係を把握し、記録して職員間で共有している。馴染みの理容院に出かけたり、出張理容で来訪するなど、関係が継続できるよう支援している。入所者同士や、日々来訪する近隣住民との新たな馴染みの関係もできている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、より良い関わりができるように支援している。また、一人ひとりの持つ能力を活かせる場の提供にも努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所した利用者、家族にも今迄と同様、行事の案内をしたり、退所後の様子を伺ったりしながら、場合によっては相談に乗ったりもしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や、利用者との何気ない会話の中から、表情や仕草からも意向をくみ取るよう心掛けている。</p>	<p>入所時の基本情報をもとに、日々のケアの中での聞き取りや表情、仕草などから利用者の思い、意向を把握するよう努めている。その後変化があれば、介護記録や日誌、「出来ること・出来ないシート」に記録して、職員会で話し合っ情報共有し、ケアに活かすよう努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族、親類、以前の担当ケアマネジャーなどからの情報を活かしながら、本人の声に耳を傾け、支援の参考にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状況を常に把握し、申し送り用紙を活用している。全職員が理解し臨機応変な対応ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるよう定期的に、また、必要に応じてその都度カンファレンスを行っている。ケアマネージャーを中心に全職員が利用者個々の現状を把握し、具体的な意見を出し合って日々のサービスに取り入れている。	利用者や家族から意見を聞き、アセスメントやモニタリングを定期的に行って職員会で全員で話し合いをし、利用者が役割をもって本人らしく暮らせることに重点を置いた介護計画を作成している。計画は6ヶ月毎と、変化があれば随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録を作成し、日々の状況を記入している。職員間で情報共有しながら、実践方法や計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にとって今最も必要なサービス提供ができるよう、家族とも協力して最善の方法を提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用し、利用者の気分転換にもなるので行事にはできるだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月に一度の訪問診療を行っている。必要に応じて歯科往診等の医療支援も行っている。近隣病院との連携で、医師と利用者の良好な関係が築かれ、安心して暮らしている。	入所時に、全員の希望で協力医がかかりつけ医となっており、月1回の訪問診療が行われている。緊急時に備え、24時間の医療連携体制が整備されている。専門医受診は家族対応だが、必要に応じて職員が同行している。受診結果は毎月家族に送付し、職員は申し送りなどで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の資格を持つ職員がおり、健康管理を行っている。また、本人の体調の変化に応じて必要な処置を行うとともに、医療機関への相談や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院中は、職員も面会に行くことで利用者に安心してもらったり、病院関係者との情報交換や相談に努めて、退院時の受け入れがスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ、事業所でできること、できないことを明確にしたうえで方針をまとめ、家族に説明し、希望を聞いて対応している。個々の状態に沿った方法を、家族や医師と相談しながら決定している。	入居時に、看取り指針に基づき、利用者や家族に事業所としてできること、できないことの説明をして、同意を得ている。協力医との医療連携体制を整備して対応し、看護職でもある管理者が職員の研修を実施している。開設当初から、20数名の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、統一された方法で定期的に職員訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、実施時には消防署にも協力してもらっている。	消防署の協力を得て年1回火災訓練を実施しており、近隣住民も参加している。地域自主防災訓練には職員も参加しており、被災時の地域連携体制ができています。台風での避難指示があった際には、地域住民の協力が得られた。非常用飲料水、食料などを3日分以上備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に敬いの気持ちを持って接し、自尊心を大切にしている。トイレ介助や居室でのオムツ交換時などはドアを閉めるなど、プライバシーに配慮した対応ができるよう職員全員で話し合い、実践している。	プライバシー保護について職員全員で話し合っており、周知徹底がされている。トイレ誘導時にはさり気なく耳打ちしたり、大勢の中での声掛けは、本人に分かるように丁寧に話すなど、一人ひとりを大切にして、誇りや自尊心を損ねない対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや気持ちが自然に表現できる雰囲気づくりを心がけている。自分から表せない利用者は、表情や仕草などから思いを汲み取り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	周りを気にすることなく、自分に合ったペースで一日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容店を定期的に利用している。整容道具を整え、居室やホール洗面台でいつでも整えることができるようにしている。その人らしいおしゃれができるよう、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の利用者のできること、下ごしらえ、味見、後片付け等を職員と一緒にしている。また、誕生会やバーベキューなど季節の行事を取り入れ、食事が楽しめるよう努めている。	利用者の希望も聞きながら、職員が交替で献立を作成し、食材には近隣住民から提供される旬の野菜なども活用して、調理している。利用者も下拵えや味見、後片付けなどに参加し、職員と一緒に会話を交わしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取チェック表を活用し、その人の状態に合わせて食事の形態やメニューを変更したり、好きな飲み物や栄養ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯の洗浄等、利用者の能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が行えるよう、支援している。排泄チェック表を活用しながら、また、本人の表情や仕草を読み取り、声をかけて誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とし、本人の表情や仕草を見ながら声掛けしてトイレ誘導している。昼間は布や紙パンツを使用し、夜はおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。現在、布パンツ使用者は3名で、排泄の自立支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取、食事などに気を付け、便秘予防や自然排便が出来るよう心がけている。最終的には、便秘薬も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合は無理強いせず、できるだけ本人の希望やペースに合わせて入浴できるように努めている。	毎日全員に入浴の声かけをして、利用者の希望に沿って入浴できるよう支援している。朝や夜に入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、声かけや対応などを工夫して入浴につなげている。全員平均週4回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室で浅眠したり、ホールで過ごしたりしている。夜間不眠時などには、職員が話し相手をしたり、居室室温や寝具の状態に気配りをして、安心して眠れるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の状況、処方薬の内容を職員全員が把握し、服薬支援を行っている。薬の変更があった場合には、状態の変化などをその都度観察し、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握したうえで、本人の気分と体調に合わせて、家事の手伝いを頼んでいる。その日の状況により、掃除や縫い物などでも気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の様子を見ながら、散歩、日向ぼっこなどを行っている。利用者の希望に沿えるよう、外出支援には柔軟に対応している。	天候の良い日には近隣を散歩したり、外気浴をしている。高齢化で利用者の外出頻度は以前より少なくなっており、外出時には全員が車いずを使用している。希望で体験学習の高校生や家族と外出する利用者もいる。季節行事の初詣、花見や運動会などには、利用者は楽しく参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、相談しながらトラブルが起きないように対応している。全ての家族と相談のうえ事業所で管理し、必要な際に現金を渡して、本人の要求に応えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるようにしている。手紙等も、本人が希望する際にはは出したり、返事がくるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者と一緒に手作りした飾り付けを行い、親しみの持てる共有空間づくりを心がけている。事業所の周りには季節の花を植え、日向ぼっこの際などに楽しんでいただいている。	玄関からすぐに居間兼食堂があり、テーブルや椅子の配置を工夫したり、大字のカレンダーや時計を見やすい位置に掛けるなどの配慮をしている。廊下の壁には利用者と職員で作った塗り絵などが飾られ、季節感のある温かな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、ベランダなどに長椅子を置き、一人になりたいときや気の合う利用者同士、自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の愛着のある家具や使い慣れたものを持ってきてもらい、心地よい空間になるように工夫している。	各居室の入り口は暖簾があり、ドアを開けても中が見えないよう工夫されている。家族の協力も得て、使い慣れた筆筒や椅子、愛読書を持ち込む利用者もいる。家族写真や手作り作品などを飾ったりして、それぞれ居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、浴室、トイレ等には手すりを設置している。出入り口にはスロープ、踏み台も設置している。また、居室の表札、トイレの表示等も大きく、見やすく表示している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				